

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0473100527		
法人名	有限会社konno		
事業所名	グループホームたんぼぼ	ユニット名	A棟
所在地	宮城県遠田郡美里町北浦字米谷73-3		
自己評価作成日	令和 元年 9月 4 日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 元年 9月 26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症の状態であっても家庭的な雰囲気の中でお一人お一人の意思、生活のリズムを大切にしながら共に助け合い共同生活をしている。カウンター式台所で毎食目の前で手作りされた、季節が感じられる出来たての食事が食べられる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

小牛田駅から車で10分、国道108号線沿いにホームがある。開設より14年目、地域に根差している。美里町担当窓口、区長、民生委員等の連携の下に情報の交換や介護技術のスキルの研鑽に努めている。専門家による地域包括ケアシステムの話や機能回復の手法を学ぶとともに、キャラバンメイトに参加し積極的に活動している。家族の意向を汲んだ年中行事では、お茶っこ飲み会、ミニ運動会、かるた大会、頭の体操等、それらの様子を「たんぼぼ便り」で家族に届けている。入居者の明るい表情から、看護師を含め全職員の努力がうかがえる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホームたんぽぽ)「ユニット名 A棟」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各棟で目標を立て棟内に貼り、毎日各自確認しています。	法人理念「人を信じ、人を愛し、人に尽くす」を掲げ、各ユニットで目標を立て月1回の全体会議で唱和している。職員は入居者の立場を最優先にと考え、「自分の行く末」と考えてケアにあたっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームの行事にボランティアの方々に参加して頂き交流を図っています。また、地域の行事に声をかけて頂き、ご利用者様と一緒に参加しています。	ホームの行事、敬老会やたんぽぽ祭り等でボランティアによる歌や踊りの披露がある。絵手紙の先生による教室、地域祭りの子供神輿が来たり、「お茶っこ飲み会」や防災訓練等に参加し交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	学校等の研修の要望に合わせて施設訪問を受入れしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にご利用者様、スタッフが参加し現状報告を行い、参加している方々より意見を頂き、サービス向上に努めています。	出席者は地域包括職員、区長、民生委員、家族代表、入居者代表、管理者及び職員である。入居者の状況、研修や行事の報告をしている。「たんぽぽ便りは毎月でなくても良いのでは」の意見をもらい3ヵ月毎にした。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2か月に1度開催の運営推進会議時等や、必要に応じて現状をお伝えし、指導、助言を頂いております。	町からキャラバンメイトの講師依頼を受けている。入居者の家族について相談した。市主催の研修に積極的に参加し、認知症の勉強会、介護現場のレクリエーション、包括ケアシステムの仕組み等を学んだ。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外は玄関の施錠はせず、両ユニットを自由に行き来し、交流できる雰囲気作りをしています。問題が起きた時はスタッフ同志、会議を持ち身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	身体拘束適正化委員会を含めた、年間研修計画を作成し実施している。職員から不適切なケアについてアンケートを取り、話し合いを持った。家が心配だという帰宅願望の入居者と一緒に掛付け、安心してもらうなど、拘束のないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待、拘束等については、グループホームの全体ミーティング等にて勉強会を行い、スタッフに周知しています。ご利用者様の状態を把握しスタッフ間の情報共有を徹底するよう心掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修を行い権利擁護や成年後見制度について学んでいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約や改定など、ご利用者様、ご家族様の不安や疑問に思っている事等を伺い、詳細の説明を行い、納得して頂いた後、署名捺印を頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会総会にて要望等を伺い、頂いた意見を基に検討し、意見を反映し実行に移せるよう努めています。	家族会が設置され総会で要望を聞いている。入居者の生活様子を担当職員が手紙で伝えている。家族からいつも飲んでいたジュース名を聞いて対応した。本人の希望を聞き、要望に合わせている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ間で話し合いの場を設け、意見交換を行い実行に移しています。業務日誌を用いてスタッフ間で情報を共有しています。	玄関には、職員の提案で作った手形版画が飾ってあった。行事班の提案で、お茶の時間に使うコースターや皿作りをしている。就業時間に対する意見が職員から出され、反映された。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフ、非常勤スタッフ一人一人の状況、体調、家族環境を考えシフト調整しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新しく入社したスタッフに同行し業務内容を把握して頂くなどの対策を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者主催の勉強会等に参加し交流を図りつつ認知症への理解と対応について学んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者様の状況に常に気を配り変化に気を付け何かあれば対応を行い不安なく過ごせるようにしています。ご家族様からも情報提供して頂き対応しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご利用者様に何でも話して頂ける様な雰囲気作りを心掛けています。ご家族関係にも配慮し、個々の気持ちを受け止める様にしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを基にスタッフで必要な援助を検討しながら援助計画を作成し支援しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様と一緒に洗濯物干し、たたみ、テーブル拭き等お手伝いして頂いております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通院、入退院時などご家族様にも立ち会って頂きホームと共にサポートしていただけるよう協力体制を築いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様の訪問や、協力を得ながら自宅への外出支援や外食など家族との関係が途切れない様支援しています。	友人の訪問や生まれ育った場所、自宅への外出などの支援を行い、馴染みの関係が切れないよう配慮している。家族と馴染みの店での外食をしたり、絵手紙で家族へ年賀状を出すなどの支援もしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様それぞれの心身状態を常に見極め座席を変えたり声掛けに努力しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に入所されたご利用者様について必要な情報、相談が有ればその都度、ご本人様、ご家族様のフォローに努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	面会時、ケアプラン更新の際には、ご家族様に生活の様子を伝え意見を伺います。その意見に添えるようにミーティングで話し合いをしています。	帰れないことを知っている入居者の悩みを聞いたり、家族の話や本人の子供の頃の話や聞くなどして、入居者の心に寄り添い安心してもらっている。「家に帰りたい」の訴えにはドライブで対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者様の毎日の状況をケアマネに報告し、スタッフ全員が情報を得てミーティングや申し送りをしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活の記録や申し送りをミーティングにて行い、その都度、対応しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	グループホームの全体会議、毎日のミニカンファレンスにてそれぞれの意見を出し合い、計画作成に反映しています。	6ヵ月毎にモニタリングし見直している。ユニットごとに毎月評価し、サービス内容について話し合っている。本人にとって、安全安心であることを計画目標のポイントとしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者様の毎日の様子を記録しそれを基に、それぞれの担当スタッフに申し送りを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様へ電話を掛けたいと申し出があった時など電話を貸したり、家に帰りたい等の申し出が有る場合、自宅周辺をドライブしたり臨機応変に対応しています。また、急遽ご家族様からの外出等にも対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月一度の絵手紙を楽しまれ、四季折々の作品を壁に飾り、季節を感じて頂けるようにしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診前、主治医へ状態報告したり、通院時に相談箋に日々の状態を記入し指示等仰いでいます。主治医は入所時に各ご利用者様ご家族様で決めて頂いています。変更の際はご家族様ご本人様に確認しています。	協力医の往診と希望のかかりつけ医を家族同行で受診している。食事や水分を摂らない時や発熱の際は看護職員に相談し、受診の判断をもらっている。消防署員から、緊急時の応急手当の研修を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ミーティングや申し送り、ファイルにて常にナースと情報を共有しています。夜間の急変時は連絡し対応できるようにしています。ご家族様にもすぐ連絡しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には管理者、ケアマネジャーが同行し担当医、看護師との面談に同席しています。診療情報で適切な支援ができるようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時、ご意向を伺っています。状態変化に伴いその都度話し合い等でご意見に添えるように支援しています。	入居時に「看取り介護に関する指針」の文書で、看取り期の介護について説明している。医師の判断で終末期になったら、ターミナルに関する意思確認書による家族との三者面談を行う。家族の希望で入院することが多くなっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生については、ヒヤリハットの事例から再発防止についてスタッフ全員で確認しています。また応急手当については消防署員による研修会を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年様々な想定で訓練を実施しています。マニュアル確認と地域との連携もその都度確認し実施しています。	年2回(夜間想定含)避難訓練を実施した。近隣住民による見守り協力があった。ハザードマップを参考にして、増水時の高台避難などを確認した。玄関スロープの不具合について、再整備の要望が出ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様の気持ちに配慮した声掛けや対応を行っています。話し方でも指示的な声掛けにならないよう努めています。	入居者に対し、否定しないことや声の大きさ、口調に気を付けた会話に心掛けている。失敗時は本人も気にしているので「大丈夫ですよ」と声がけしている。周辺症状の対応について、VTRなどを用いて学習した。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で決定的に話すのではなく、いくつかの選択肢を用意しご利用者様が選択出来る様に心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースに合わせた生活が出来るようにその日の体調、気分をきちんと把握出来るようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理髪の支援サービスを2か月に1度行って気持ちよく過ごして頂いています。服装も本人の意向を伺い、身だしなみに気を付けおしゃれができるように心がけ準備しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	四季折々の野菜、魚等を取り入れバランス良く調理しています。行事に合わせたメニューも考え楽しく食事出来るよう工夫しています。	法人の栄養士が献立を作成し、調理専従の職員がいる。敬老会などの行事の際に、好きな刺身や赤飯などを楽しんでもらっている。ピクニックでの仕出し弁当や誕生会での手作りのおやつなど楽しむ工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の健康を考慮し、塩分控えめ栄養のある食事を提供しています。脱水にならないよう常に水分補給にも気を付けています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは一人一人声掛けし行って頂いています。介助が必要な方はスタッフが対応し清潔に心掛けています。必要に応じて訪問歯科を利用されている方もいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導前に失敗も有りますが早目の誘導を心掛けています。	早めの声掛けで失禁を減らすよう心掛けている。「オムツがイヤ」という本人の気持ちを支援し、適切な誘導でパンツに改善した例がある。自尊心に配慮し、失敗に気付いても「汚れてる」などの言葉は言わない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体調の観察や生活チェック表をもとに、腹満になっていないかなど確認し、軽い運動をすよう心掛けています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時、衣類を脱いだりすることに羞恥心の強い方もいるので楽しい会話で穏やかに入浴出来るよう心掛けています。入浴後水分補給をして頂いています。	入浴を拒む入居者には、気を逸らす楽しい会話をしながら脱衣したり、時間をずらすなどの工夫をしている。浴槽への移動が困難な方にはシャワー浴をしている。手出し過ぎない支援を心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れない際は会話をしたり、その方に合わせた対応を心掛けています。昼寝の時間を短時間にし散歩したり身体を動かして眠れるようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容や注意事項を記した処方箋を確認しています。何の薬なのかどんな副作用があるのか把握し正しく服用して頂いています。変更時は誰もがわかる様に申し送りしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様と一諸に軽い体操、ゲーム等を行っています。音楽を聴いて一緒に歌を唄ったり、テレビ観賞したりされています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日はホームの周辺を散歩したりしています。外の空気や背景に触れられるよう季節の花を見学に施設全体で外出したり、お弁当を持ちピクニックに出掛けたりしています。	初詣は恒例行事となっている。法人のワゴン車を使って、四季折々の花を観賞に弁当持参で出掛けている。天気の良い日はホーム周辺を散歩したり、デッキで日光浴するなどしている。計画行事での外出の際は、職員は全員出勤で対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出の際、買い物をし代金を支払って頂き、お金は、一時会社負担で、後日ご家族に請求となります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様からご利用者様へ手紙が届いたり、それに返事を書くのを、お手伝いさせて頂いたりしています。年末には絵手紙で年賀状を作成し出しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間でご利用者様に快適な生活を過ごして頂くよう、ホール、玄関等に季節感などを取り入れたり、トイレなどの表記を大きく見やすい位置に貼っております。	玄関スロープで秋桜がそよいでいる。ホールは床暖房で、壁には入居者と作った絵手紙や折り紙で作った柿、栗、紅葉、月見が飾られている。ウッドデッキで茶飲みすることもある。月に1度、全職員によるワックス掛けなどの大掃除をし、清潔を保っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースに、ソファを置き、気の合う方、同志談話されたり、他利用者様の居室へ遊びに行ったり、一人で居室で過ごされたり、その方に合わせたペースで過ごして頂いています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみのものを使用して頂き、余り生活の変化を感じないように過ごして頂けるよう心掛けています。	毎月の手作りカレンダーが掛けられ、家族の写真や手芸品が飾られている。濡れタオルで乾燥を防ぐ工夫をしている。落下対策のマットレスがあったり、ベッドに縫いぐるみが寝ていたり、その人らしい居室である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、居室、お風呂等、一目でわかるように大きく見えやすい位置に貼り、見守りしながら1人で自由に行動できるようにしています。移動スペースに物を置かないようにし、転倒防止に努めています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0473100527		
法人名	有限会社konno		
事業所名	グループホームたんぼぼ	ユニット名	B棟
所在地	宮城県遠田郡美里町北浦字米谷73-3		
自己評価作成日	令和 元年 9月 4 日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 元年 9月 26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様1人1人に合った声掛け対応を心掛けています。ご入居様のほとんどはホールで過ごされる事が多く、皆でレクリエーションを楽しんだり談笑したりとふれあいの多い棟です。ご入居様、スタッフ共に居心地良く、または、生き生きと過ごせるように皆で協力し、助け合いながら日々生活しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

小牛田駅から車で10分、国道108号線沿いにホームがある。開設より14年目、地域に根差している。美里町担当窓口、区長、民生委員等の連携の下に情報の交換や介護技術のスキルの研鑽に努めている。専門家による地域包括ケアシステムの話や機能回復の手法を学ぶとともに、キャラバンメイトに参加し積極的に活動している。家族の意向を汲んだ年中行事では、お茶っこ飲み会、ミニ運動会、かるた大会、頭の体操等、それらの様子を「たんぼぼ便り」で家族に届けている。入居者の明るい表情から、看護師を含め全職員の努力がうかがえる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホームたんぽぽ)「ユニット名 B棟」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフに意識づけるようケア目標を立て各棟に理念と一緒に掲示しています。	法人理念「人を信じ、人を愛し、人に尽くす」を掲げ、各ユニットで目標を立て月1回の全体会議で唱和している。職員は入居者の立場を最優先にと考え、「自分の行く末」と考えてケアにあたっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームで行う季節の行事や秋祭りで地域の方々の踊りや歌を披露して頂き、月一回の絵手紙などご利用者様に楽しんで頂いています。地域での行事にも参加しています。	ホームの行事、敬老会やたんぽぽ祭り等でボランティアによる歌や踊りの披露がある。絵手紙の先生による教室、地域祭りの子供神輿が来たり、「お茶っこ飲み会」や防災訓練等に参加し交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症キャラバンメイトとして数名登録しており地域の方や企業の方に向けて認知症への理解を深めてもらう為の活動に参加しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に毎回スタッフも参加し現状の様子を報告し参加されている方々のご意見を伺いそれを踏まえサービスの向上に努めています。	出席者は地域包括職員、区長、民生委員、家族代表、入居者代表、管理者及び職員である。入居者の状況、研修や行事の報告をしている。「たんぽぽ便りは毎月でなくても良いのでは」の意見をもらい3ヵ月毎にした。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に町の担当者に毎回参加して頂きホームの現状をお伝えし指導、助言を頂いています。	町からキャラバンメイトの講師依頼を受けている。入居者の家族について相談した。市主催の研修に積極的に参加し、認知症の勉強会、介護現場のレクリエーション、包括ケアシステムの仕組み等を学んだ。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	鍵は日中掛けず両棟見守りで行きき、出来る環境に努めています。一人で外に行きたがる方もおり安全に行けるよう配慮しています。	身体拘束適正化委員会を含めた、年間研修計画を作成し実施している。職員から不適切なケアについてアンケートを取り、話し合いを持った。家が心配だという帰宅願望の入居者と一緒に出掛け、安心してもらうなど、拘束のないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会社全体で虐待委員会を設け話し合いをしている。G・H全体ミーティングで虐待研修で学んだ事を発表し全員で確認している。スタッフ一人一人が声掛けなどにも注意して接するように心掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今現在、必要な方は居ませんが権利擁護について学んでいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時点で説明を行い契約を交わしていません。改定が有る場合には家族会議開催時や必要に応じて説明をし了承を得た上で行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会議開催時、ご家族だけで要望等出してもらい話し合いの場を設けています。ご家族様が来訪時に出た意見は、すぐミーティング時に検討実行に努めています。	家族会が設置され総会で要望を聞いている。入居者の生活様子を担当職員が手紙で伝えている。家族からいつも飲んでいたジュース名を聞いて対応した。本人の希望を聞き、要望に合わせている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見、要望をG・H全体ミーティングや主任会議に出し検討の上、実施されています。また、スタッフ間での情報を申し送りノート等を用いて行っています。	玄関には、職員の提案で作った手形版画が飾ってあった。行事班の提案で、お茶の時間に使うコースターや皿作りをしている。就業時間に対する意見が職員から出され、反映された。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社員、パート別、又は家族環境や個々の体調を考慮し勤務時間、収入の調整をしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月一回会社全体で講師の方をお呼びし研修を受けている。また、社員もそれぞれ各自学びたい研修に参加し受けています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者主催の勉強会に参加し交流を図りつつ認知症への理解と対応について学んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族様からの聞き取りで生活歴や現在の心身状況を把握し、ご本人様との面談では気持ちに寄り添い信頼を築ける様に努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	率直に何でも話して頂ける様な場の雰囲気作りを心掛け、家族関係にも配慮し、個々の気持ちを受け止められる様に努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを基にスタッフで必要な援助を検討しながら支援計画を作成し、支援しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様にもゴミ集めや洗濯物干し、たたみ、おぼん拭き、床掃き等お手伝いして頂いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	往診、通院時、ご家族様の方にも立ち会って頂き、先生と面談し、ホームと共にサポートして頂ける様、協力体制を築いております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族との食事、ご家族様の法要、外出等に出掛けております。外出が困難になってきたご利用者様には、ご家族の方などに、訪問して頂いております。	友人の訪問や生まれ育った場所、自宅への外出などの支援を行い、馴染みの関係が切れないよう配慮している。家族と馴染みの店での外食をしたり、絵手紙で家族へ年賀状を出すなどの支援もしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様それぞれの心身状況を常に見極め、お互いが助け合えるような座席を考えております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院による退所の方にお見舞いに行き、経過をみながら次の生活の場の相談にのっています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様、ご家族様の話に耳を傾け、希望に添えるよう、日々のミーティングにて話し合っています。また困難な場合、相手の立場になった考えにて対応するようにしています。	帰れないことを知っている入居者の悩みを聞いたり、家族の話や本人の子供の頃の話や聞かすなどして、入居者の心に寄り添い安心してもらっている。「家に帰りたい」の訴えにはドライブで対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者様の様々な状態をケアマネと連携をしながら把握し、スタッフ全員が情報を共有し、ミーティング等にて再確認しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の記録や申し送り等をミーティングで把握し、その都度、対応を検討しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様の状況を毎日のミーティングにて確認し、ご本人様の思い、ご家族様の意見も尊重し、スタッフ全員で介護計画を作成しています。	6ヵ月毎にモニタリングし見直している。ユニットごとに毎月評価し、サービス内容について話し合っている。本人にとって、安全安心であることを計画目標のポイントとしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、生活チェック表、生活の様子、排便チェック表を記入し、毎日のミニミーティングで、情報を共有したり、検討しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	好き嫌いのあるご利用者様には別メニューにて対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月1回の絵手紙を皆さん楽しみにしています。レクリエーション等も地域のボランティア様の御協力を頂き、楽しんでおります。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は入所時、各ご利用者様、ご家族様の希望で決めて頂いております。通院、往診にも可能な限り同席して頂くようにしています。	協力医の往診と希望のかかりつけ医を家族同行で受診している。食事や水分を摂らない時や発熱の際は看護職員に相談し、受診の判断をもらっている。消防署員から、緊急時の応急手当の研修を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご家族様にも必要時、夜間帯でも携帯で急変対応出来る状態をとり、連絡しています。ミーティングでや申し送りやファイルで常にケアマネと情報共有しております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は、ケアマネ、管理者、看護師、主任等が同行します。担当医、看護師との面談に同席して、診療情報等で適切な支援が行えるようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看護についての方針に沿って確認しながら支援を行っています。ご利用者様の心身状況に応じて担当医、ご家族様、ホーム側と話し合いの場を設け、チーム全体で支援しています。	入居時に「看取り介護に関する指針」の文書で、看取り期の介護について説明している。医師の判断で終末期になったら、ターミナルに関する意思確認書による家族との三者面談を行う。家族の希望で入院することが多くなっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生については、ヒヤリハットの事例から再発防止について、スタッフ全員で確認しています。応急手当については、消防署員による研修会を行っております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、日中、夜間を想定した避難訓練を実施しております。また、地域との連携については、その都度確認し、実施しております。	年2回(夜間想定含)避難訓練を実施した。近隣住民による見守り協力があった。ハザードマップを参考にして、増水時の高台避難などを確認した。玄関スロープの不具合について、再整備の要望が出ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	会話等で命令口調、指示的な声掛けにならないよう話し方にも配慮しています。ご利用者様の気持ちに配慮した声掛けに努めております。	入居者に対し、否定しないことや声の大きさ、口調に気を付けた会話に心掛けている。失敗時は本人も気にしているので「大丈夫ですよ」と声がけしている。周辺症状の対応について、VTRなどを用いて学習した。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様ご自身が選択できるように決定的に話すのではなく、いくつかの選択肢を用いるように心掛け、対応しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様の体調やペースを考慮し皆、同じようにはなく、個々に合わせた過ごしやすい環境づくりに努めております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出の際などは、整容に気を配り髪をセットしたり、洋服等はご本人様に選んで頂きおしゃれを楽しんでもらえるよう努めております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は家庭的な食材で手作りしています。また、行事等には季節に合ったメニューにしています。日常の会話で食べたい物をお聞きしメニューに取り入れしています。下膳、テーブル、お盆拭き等、1人1人が出来る事をお手伝いして頂いています。	法人の栄養士が献立を作成し、調理専従の職員がいる。敬老会などの行事の際に、好きな刺身や赤飯などを楽しんでもらっている。ピクニックでの仕出し弁当や誕生会での手作りのおやつなど楽しむ工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調、病歴を考慮しメニュー形態、量に気を付け提供しています。水分はこまめに摂取して頂き脱水にならないよう配慮しています。また、水分量は排泄状況等から検討しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご利用者様に応じた口腔ケアを毎食後におこなっています。夕食後に義歯使用の方は、薬剤洗浄管理をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間でトイレ誘導し、失禁を出来るだけ減らせるようにしています。夜間は居室に設置したポータブルトイレやトイレを使用しています。	早めの声掛けで失禁を減らすよう心掛けている。「オムツがイヤ」という本人の気持ちを支援し、適切な誘導でパンツに改善した例がある。自尊心に配慮し、失敗に気付いても「汚れてる」などの言葉は言わない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表に毎日記入し、排便状況を確認し、排便の無い方には病院から処方された薬を飲んで頂いています。また、食物繊維の多い食品を取り入れたりホールや外を一緒に散歩したり運動をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	3日に1回を目安に入浴しています。拒否がある際は時間をずらして再度声掛けしたり、翌日に入ってもらったりしています。体調不良時は避けています。	入浴を拒む入居者には、気を逸らす楽しい会話をしながら脱衣したり、時間をずらすなどの工夫をしている。浴槽への移動が困難な方にはシャワー浴をしている。手出し過ぎない支援を心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れない方には会話をしたり、その人のペースに合わせて、消灯時間を決めずに就寝して頂いています。定期的リネン交換し、汚染時は速やかに対応し安眠出来るよう心掛けています。また、温度管理にも気を付けています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルにて情報を共有し薬の変更があれば誰が見てもわかるよう申し送り確認します。その後の経過にも注意しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る方には洗濯たたみや食後のテーブル、お盆拭き等手伝って頂いています。毎月絵手紙や外出を行っています。ボランティアさん協力のもと、歌や踊りを楽しんで頂く機会を設けています。また、天気の良い日は外で日光浴しながらティータイムを楽しんでいます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は近くをスタッフと散歩をしたり、季節によってスタッフが内容を考え、お花見に施設全体で出かけたり、お弁当持参でピクニックに出掛けたりしています。または、ご家族と外出、外食される方もいらっしゃいます。	初詣は恒例行事となっている。法人のワゴン車を使って、四季折々の花を観賞に弁当持参で出掛けている。天気の良い日はホーム周辺を散歩したり、デッキで日光浴するなどしている。計画行事での外出の際は、職員は全員出勤で対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は会社が管理していますが、外出した時など欲しい物が有る場合には選んで購入して頂きます。会社で一時立替、ご家族様に後日請求になります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	親族、知人の方から手紙等来た際はお返事を出すお手伝いをしたりしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日、居心地が良くなるような空間で快適な生活を過ごして頂くようホール、玄関などに季節感など感じられるよう工夫しています。トイレは3か所ありトイレの場所がわかりやすい様に大きく表記し見やすい位置に貼っております。	玄関スロープで秋桜がそよいでいる。ホールは床暖房で、壁には入居者と作った絵手紙や折り紙で作った柿、栗、紅葉、月見が飾られている。ウッドデッキで茶飲みすることもあつる。月に1度、全職員によるワックス掛けなどの大掃除をし、清潔を保っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファを置き自由に誰とでも談話出来る様にしています。また、スタッフと一緒に隣の棟に行きご利用者様同志、会話を楽しんだりして頂いています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今までの生活で馴染みのある物を使用し生活変化を感じにくく、居心地良く過ごして頂けるよう工夫しています。	毎月の手作りカレンダーが掛けられ、家族の写真や手芸品が飾られている。濡れタオルで乾燥を防ぐ工夫をしている。落下対策のマットレスがあつたり、ベッドに縫いぐるみが寝ていたり、その人らしい居室である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、トイレ、お風呂場などのスペースに一目でわかるように名前等を貼り、一人で自由にいけるようにしています。移動スペースには物を置かないようにし、転倒防止に努めています。		